

4月

2020年

みやま

第263号

病院理念

『患者さまの不安をとること』

当院の基本方針

「地域に根ざした安心できる医療」

「精神科医療の充実」

「老人医療」医療と福祉の結合

医療法人社団光生会 平川病院

今年の標語 『学びと感謝を常に忘れず 医療に対し誠実な病院 ～それが平川病院～』

〔ホームページ〕 <http://www.hirakawa.or.jp/> (e-mail) hhsp1966@violin.ocn.ne.jp



当院敷地内の桜

新型コロナウイルス対策「3密」サンミツ

最近、報道でよく聞く「3密」です。密閉、密集、密接の3つを避けましょうということです。しかし、精神科病院は「3密」ばかりのように思います。診察室は狭い部屋で密閉し、ご家族が同伴で来られると複数の方が密集します。そして、人に聞かれないような内容もある面接という形での診察は密接にあたります。精神科医療においては、診察はどうしても必要な行為であり、これがなければ始まりません。そこで、当院では少し寒いですが窓を開けっ放しとし、室内で超音波加湿器を使い次亜塩素酸ナトリウムを含んだ霧を撒き、予防を試みています。患者さんには来院時に非接触体温計で熱を測り、熱のある人は、基本的には他の医療機関に受診していただくようにしています。近隣の高齢者施設の通院者については基本的には往診としました。待合室で高齢者が感染しないとも限らないからです。

なぜ、このような厳格な対応をとらなければならないかということ、精神科病院に入院している患者さんの多くが高齢者だからです。そして、生活習慣が乱れやすい人が多いため、糖尿病、高血圧、煙草による肺気腫など合併症を併発しています。新型コロナウイルスが病棟に入れば、かなり大変なことになると思います。現在、ご家族を含めて面会は控えていただき、入院患者さんにも外出を控えていただいています。このような状態が長期になる可能性もでてきたので、近々、iPadなどで、画面を通してではありますが、面会ができるような対応をしたいと思います。いろいろご不便をおかけしますが、どうかご協力のほど、よろしくお願いいたします。

院長 平川 淳一

【表紙】院長挨拶【P2】リハビリテーション科から【P3】地域生活支援室より【P4】アルコールティケア・メンバーに関する報告【P5】平川病院の厨房ってどんなところ？【P6】当院における新型コロナウイルスへの対応

精神科療養病棟での

リハビリテーション科から

身体リハビリテーションが実施できることになりました

2020年度診療報酬改定で、念願だった精神科療養病棟での身体リハビリテーションが実施出来ることになりました。疾患別リハが算定可能になることで、今までとは別の枠組みの中で、東3、4、5病棟の患者様に1対1で身体リハビリテーションを提供出来ます。今までの診療報酬では、そこが評価されていなかったため、東3、4、5病棟の患者様は、リハビリテーションを必要とする際には別の病棟に移動し、リハビリテーションが終了したら元の病棟に帰る、というようなやり取りが必要でした。今後は、慣れた病棟にいるまま身体リハビリテーションを提供できるようになるため、より患者様に良い医療を提供できることとなりますので、リハビリテーション科、病棟スタッフ、精神科OTスタッフでミーティングや検討を重ねながら体制構築を行っていきたいと思います。

今回の診療報酬改訂については、今まで平川病院が取り組んできた“精神疾患がある方への身体合併症治療をしっかりと行う”ということが実を結んだものであり、直近では厚生労働省科学研究費での研究において、東3、4、5病棟の患者様、病棟スタッフに協力して頂いた結果が反映した結果だと思っています。それをしっかりと、院長が中央に持って行ってくださいました。

人員の問題で、全員にくまなく提供するには少しお時間を頂くこととなりますが、人員を補強して、できるだけ良い医療を、より多くの方に届けられるように尽力していきたいと思いますので、是非、今後ともよろしくお願いいたします。

リハビリテーション科 科長 理学療法士 上 蘭 紗映



働くってなんだろう

地域生活支援室より

今回は、作業療法（以下OT）科で今年度より取り組み始めた、“働くこと”に関するプログラムについて紹介させていただきます。

このプログラムは、OT科職員の、“OTに参加している患者様の中に、働きたいと思っている方はどのくらいいるのだろうか”という疑問から始まりました。そこで、OTに参加している入院患者様、外来患者様にアンケート調査を実施し、その結果、6割以上の方がそのような気持ちを持っているということがわかりました。本人の意志や価値観を、患者様と関わる上で大切にしている私たちOT科にどのようなことができるのか…。方向性を模索している中で、地域生活支援科、デイケア科職員とのミーティングや、デイケア科で実施されている就労支援プログラムの見学、ハローワーク八王子の職員様による勉強会を開催していただきました。他部署や、外部の方のお力添えをいただき見えてきたことは、働きたいという気持ちを持っていても、“就労経験がない”、“新しいことを始めるには不安が大きい”という方もおり、取り掛かりが難しいということでした。まずは、“プログラムに参加したからといって、すぐにこれまでの生活を変えて就労に向けて動き出さなければいけないというわけではない”ということをお客様と共有し、その点を踏まえて

“働きたいと思った気持ちと向き合う”ところから始めていくことにしました。その後も内容に関してのミーティングを重ね、2月にはハローワーク八王子の職員様に、『働くってなんだろう？』というテーマで、誰にでも働きたいという気持ちを持つ権利があること、障がいを抱えていたとしても誰でも仕事ができるような制度も整えられている、といった内容のセミナーを開催していただきました。このセミナーには4名の外来患者様が参加してくださり、終了後のアンケートでは、全員が次回以降もこのような機会があれば参加したいと回答していただきました。

今回始めた取り組みは、一言で表すと就労支援プログラムとなりますが、そこだけに限らず、将来的な就労に向けたOTでの活動内容の見直し、デイケアへの移行、作業所通所など、新たなステップへ一緒にチャレンジできる場になればと思っています。まずは、このような場があることを皆様にご存知頂けると嬉しいです。

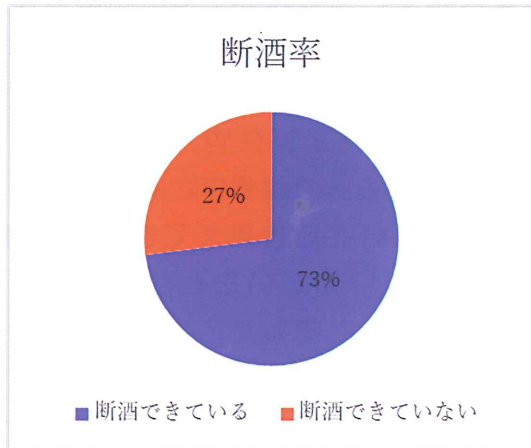


作業療法科 主任 作業療法士 土屋 貴裕

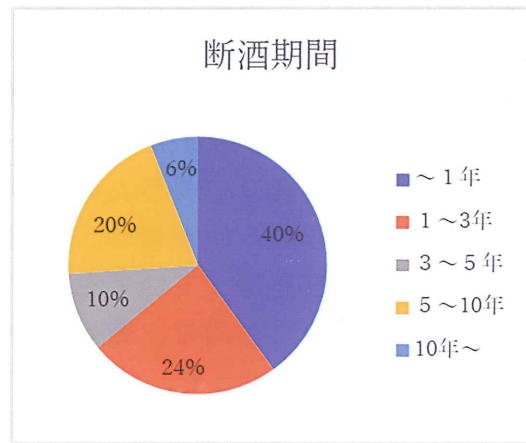
アルコールデイケア・メンバーに関する報告

当院は、一般精神科デイケアと、アルコール依存症の断酒に特化したデイケアと、機能を分けて対応しています。依存症のデイケアについては都内でも数が少なく、特徴に合わせたプログラムを実施しています。今回は、令和2年1月時点でのメンバーに関するデータを集計したので、報告します。

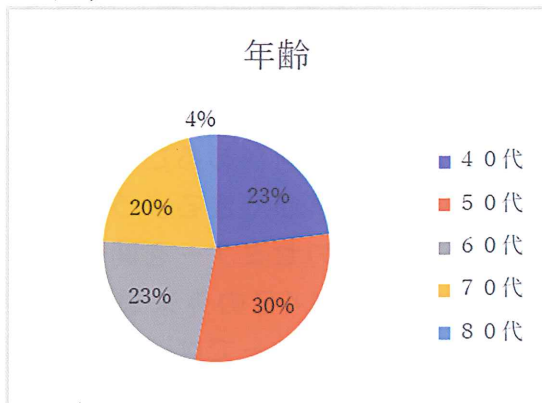
< グラフ 1 >



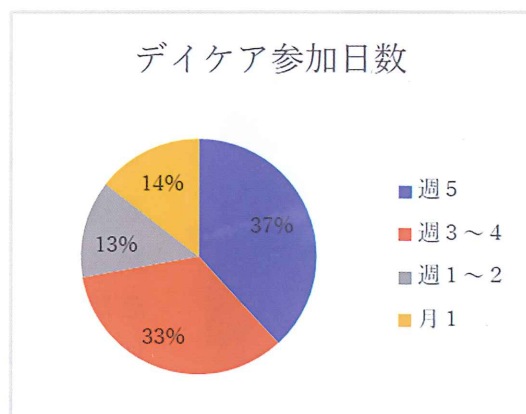
< グラフ 2 >



< グラフ 3 >



< グラフ 4 >

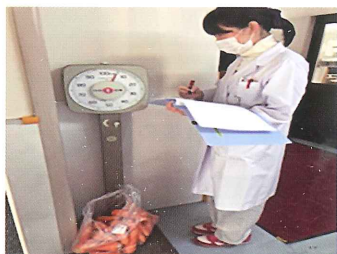


アルコール依存症の回復に最も必要な「断酒」について、グラフ1に示したように、当院では7割強の方が現在、断酒しながら生活を送っています。常に高い比率を維持しているのが、特徴です。断酒期間については、グラフ2より、1年未満の方が全体の1/3を占めています。依存症の回復段階において、1カ月・3カ月・半年・1年と節目で、壁があり、中でも1年の壁は大きいとされています。その壁が越えられず、再飲酒を繰り返してしまう方もおり、1年未満の方が占める割合が大きくなっています。グラフ3では、年齢を示しました。5～60代が最も多く、40歳から83歳まで幅広い年齢層です。グラフ4では、デイケア参加日数を示しました。毎日参加する方は、「断酒のため」「生活リズム維持のため」に利用しており、週1～2や月1の方は、仕事の合間にデイケアを利用しています。就労しながらも、デイケアと関わりを持つことは、断酒を続ける上で必要だと考えられます。今後も、一人でも多くの方が断酒を継続していけるよう、個々に合わせた支援をしていきたいと思ひます。

平川病院の厨房ってどんなところ？ —仕込み編—

「栄養科の厨房ってどんなところなんですか？1日に野菜どのくらい切っているんですか？」この質問は患者様だけでなく、職員の方からも聞かれます。きっと平川病院に10年以上勤めていらっしゃる職員の方でも、厨房の中は見たことがないはず！（衛生管理上、入室出来ないのが当然ですが…）

そこで今回、仕込みにスポットを当てて、仕込み作業と人気のカレーが出来るところをご紹介します！



納品チェック中です



納品された野菜の一部です



仕込み室です



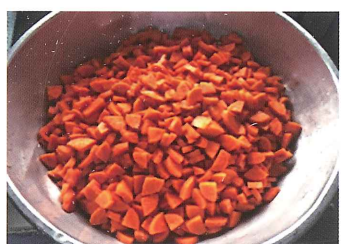
食材の仕込み中です



食材を1つ1つ切っています



みじん切りやおろしは機械を使います



人参5.3kg



じゃがいも12.7kg



玉ねぎ 20.5kg



炒めた鶏肉10kg加えて煮込みます



数種類のカレールーと隠し味を入れます！



平川病院オリジナルカレーの完成です！

仕込み編、いかがでしたでしょうか？仕込み作業は重たい野菜を運んだり、大量の食材を料理ごとに食べやすい形や厚さに切ったりと大変な仕事ですが、非常に重要です。

その食材を調理スタッフが調理します。1つ1つの作業が、患者様への美味しい食事の提供に繋がっています！では、来週はどんな料理が出るのか！？乞うご期待！！

当院における新型コロナウイルス感染予防の取り組み

現在、日本において新型コロナウイルス感染症が拡大しております。当院に於きましても患者様と職員の安心・安全確保を目指して感染防止対策を強化しています。



検温 (37.2℃以上は出勤禁止)



公共交通機関利用者はマスク着用



手指アルコール消毒の徹底



パソコン・マウス等の消毒



エレベーターボタンへの
保護シート設置



加湿器の設置
(ジアムーバー酸化水使用)

その他

- 私用での集団イベント、講習会への参加自粛
- 院内研修自粛
- 外泊および外出訓練の制限
- 外来患者様、入院患者様の接触の制限
- 外来受診時のマスクの着用
- 送迎バスの窓を開放して走行
- 来院時の検温
- 外来患者様と入院患者様のプログラムは別の場所で実施
- 入院患者様のプログラムも病棟内で実施
- など

感染拡大防止のため、当面の間、入院患者様へのご面会をご遠慮いただきます。
ご理解とご協力のほど、何卒よろしくお願いいたします。

平川病院 広報委員会

編集後記

本来であれば「街には新入生や新社会人の姿があふれ、院内においても新人研修や歓送迎会が行われるシーズンとなりました」と書いていたはずでした。

暗い話ばかりなので違う話をしたいと思います。社会人の皆さんは、初任給をもらったらか何か(買いたい物)使いたいことは、ありますか。また、皆さんの時はいかがだったでしょうか。私は、寿司屋のカウンターに座り好きなネタを注文するというのが学生の頃の夢でした(実現させました(^))。新型コロナウイルスの自粛が早期に解除され、新社会人の皆さんの夢が叶うことを期待しています。

医療法人社団光生会 平川病院

東京都八王子市美山町1076

電話 042-651-3131

FAX 042-651-3133

編集 平川病院 広報委員会

ご意見ご感想はこちらへお願いします

kouhou@hsp1966.jp

